

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	27703022202
法人名	社会福祉法人 月の輪学院
事業所名	グループホーム つかさの家
訪問調査日	平成21年3月6日
評価確定日	平成21年4月2日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	277032202
法人名	社会福祉法人 月の輪学院
事業所名	グループホーム つかさの家
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町二丁目3番5号 (電 話) 072-826-5000

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】(平成21年2月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	14 人	常勤 2人 非常勤 12人 常勤換算	4,6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42000～65000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷 金	有(円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	1日当り1,500円		

(4) 利用者の概要(2月19日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低 60 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道仁病院 東診療所 東歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに幹線道路が通り車も多いが、このグループホームのある一帯は田圃もあり、落ち着いた家並みの一角で、立派な邸宅を改造して使用されている。長年の福祉事業所での勤務の経験と其れに伴って理想のグループホームにしたいとの管理者の情熱が話していると、心にしみとおるような感じられる。最初のホーム改築時からかかわって来た管理者の熱い思いが、利用者の方たちに何が良いかを選択されてすばらしい邸宅の雰囲気をこわさず、そして利用者や家族にも喜ばれるような住みよいホームを目指してこられたのが良く理解できる。利用者の方々もこの地域に溶け込んで地区の一員として自治会や老人会などの行事に積極的に参加されて安心して落ち着いた日々を過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回改善点とされた地域との支えあいも、今回は地域行事に積極的に参加され、近隣との交流も増してお互いの理解も深まっている。つかさ便りを毎月発行し近隣にも配布されている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価に対して職員全員が評価表を自分の考えで記入して、外部評価に対する十分な理解が深まった。其れを管理者がまとめて自己評価表を作成され誠実に取り組まれている事を実感した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。民生委員、市会議員、自治会長等の関係者が出席し、ホームの管理者、家族会代表、職員との間で、具体的な意見交換が行われてホームへの理解も深まっている。参考になる意見も多く良い関係が築かれている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時には積極的に会話して意見等を聞き、訪問できない家族へは電話をして詳しい利用者の様子をお話し、又家族の要望も聞いた上で、法人の責任者会議に提出し、その意見を事業所の運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議の出席率もよく地域との理解を深め、近隣の方とも親しくして、天気の良い日の散歩、買い物でも挨拶を交わしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念は利用者の人格の尊重、尊厳を守り、共に生き心豊かな生活と社会の一員として自立性を重んじていきたいという理念を、玄関とリビング、事務所などに掲げられている。	○	管理者が長年の経験とグループホームのあり方を追求された立派な理念で言う事はないが、現実には実施できている地域との関係強化や、地域の中でその人らしく生活する事を支えている、ケアの具体的イメージを優しい言葉で理念の中に分かりやすく入れていただくことを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を認識し、毎朝、就業時に唱和し日々実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の年間行事には積極的に参加され、地域の福祉委員会、自治会との密接な理解ある良い関係を持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価には、全職員が個々に評価表に記入され、介護のあり方を追及し、其れを管理者がまとめ自己評価表を作成された。その結果、全職員が外部評価の意義を理解され改善に取り組んでおられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、民生委員、市会議員、自治会長、福祉委員、老人会長等が参加され、グループホーム側からの報告や、出席者との有益な意見交換が活発に行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの最初の試みで、寝屋川市のグループホーム見学会に(つかさの家)が選ばれ他の福祉施設関係者と意見交換が出来て好評であった。地域と連携してサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回定期的な家族への書類送付時に、利用者の健康状態、生活状況、金銭出納簿の写しを送付している。その時つかさ便りと受け持ちスタッフの便りも同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、出来るだけ話しをし家族の希望等を聞き、職員間で意見を出し合って、提案を実行し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が変わる事は利用者に影響を与える事が充分認識されているので、担当者が変わる時は利用者への影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、定期的にケア会議を持ち内部研修をしている。外部研修も費用は事業所負担で積極的に受講するようにして出席者から職員全員にフィードバックするようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や他市のグループホームにも訪問し話し合いをもっている。いろいろな福祉事業所とも交流を持つように勤めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初に利用者と家族の方達に当ホーム見学をして頂き、生活状況を説明し、利用者の生活状況、習慣をお聞きし、馴染みの関係を持つていただくよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者をひとつの大家族の一員として親しみ、人生の先輩として尊敬を持ち、人生経験を学び、共に支えあう関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを出来るだけ把握できるよう、担当者をきめ細かな変化からも思いを読み取れるようにしている。管理者、スタッフ全員で意見交換してベストの対応を考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の気持ちを理解しやすいよう受け持ちが決められている。全体をみんなの目で見、受け持ちスタッフの意見を尊重し介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月に1回みなおし、状況の変化に応じその都度対処している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ利用者の必要に応じた支援がされている。特別な外出、移送サービスなど柔軟に対処されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月1回の往診、月1回の通院に職員が同行している。かかりつけ医の紹介で提携医に変わるケースもある。提携医とは密接な関係を持ち、急な時でもすぐ対処の方法などの指示が受けられ等、適切な医療提携が確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応に関して文書化されているケースもあるが、利用者全員には至っていない。	○	重度化や終末期の対応についてご家族の方々とも十分な話し合いの機会を折にふれて持ち、その内容を記録として残される事が望ましい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを守るよう職員は充分意識して配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をしていただくため、何事も強制はしない。利用者の好みに合わせて散歩、習字、絵描き、読書、菜園の手入れ、などをしていただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者の管理栄養士によって立てられた献立のほかに、菜園から収穫されたもので彩を加えたり変化をつけるようにしている。そのほか外食やリクエスト食などをし、出来る利用者は配膳やあとかたづけなどを楽しみながら参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴に対応している。好みもあるので強制はしないが入浴日は自己決定してもらっている。バラの花びら湯やゆず湯の日もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーをめくる役や庭仕事の好きな方、料理好きな方それぞれあり楽しみでされる事を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければ毎日散歩などで外出している。近くの店への買い物にも出かけている。散髪などににも理容院へでかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠されているが広いホームなので勝手口などは施錠されていない。職員の目が行き届いて安全確認がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合防災訓練を実施している。同じ法人の月の輪学院の施設もあるので合同訓練を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は記録されている。管理栄養士による献立は栄養のバランスが考えられ、食材に詳しい職員がよく考えて調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	この建物は元の所有者の好みで庭園部分、玄関周り、室内部分が十分な広さと、良質の建材が採用されている。また、住宅設備が豪華に作られているので共用空間が居心地よくゆったりくつろげる佇まいとなっている。庭も季節感十分の木々が植えられ植物の変化が楽しめて心地よい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ごとの、好みで居室が整えられているので個人的なお部屋になっている。		